

プロジェクト進捗管理シート

方針1 「貢献」と「自立」の経済構造への転換

2 農山村産業クラスター形成プロジェクト

～観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成～

総括マネージャー

観光部長

目 標

山岳や高原、美しい景観、伝統・文化などの長野県の強みを活かし、世界水準の山岳高原観光地の形成や日常の暮らしを楽しむことができる観光地域づくり、6次産業化など付加価値の高い農林業の創出により、農山村に県民の暮らしを支える産業の集積をめざします。

総 合 分 析

「観光と農林業を基礎とした農山村産業クラスターの形成」をめざし、3つのアクションによりプロジェクトを推進しました。

達成目標4項目のうち3項目は「順調」、1項目は「努力を要する」となっています。

「観光消費額」は、2月の記録的な大雪や御嶽山の噴火などの災害、消費税率等の引き上げによる節約志向の影響等により前年を下回る結果となりましたが、「外国人宿泊者数」は、前年比28.9%と大きく増加し、平成11年の調査開始以来最多となりました。

「農業農村総生産額」は、夏はくさいの適正生産の徹底などにより主力の葉物野菜の価格が堅調であったことや、りんご、ぶどうなど果樹の生産量が増加したことなどから、平成25年に続き2年連続で3,000億円を超えました。

「素材生産量」は、前年度と同値となりましたが、「信州F・POWERプロジェクト」において、サプライチェーンセンターの設置や製材施設整備等への支援などにより増加基調にあります。

これらのことから、プロジェクト全体の取組は着実に進んでいるものと考えられます。

～プロジェクト推進に向けての課題と今後の方向性～

長野県の元気創出に向け、観光と農林業を基礎に、農山村の暮らしを支える産業の活性化を図ります。

観光については 雄大な自然を活かしたスポーツやアクティビティなどアウトドアを国内外に広く発信するため、県内の関係事業者等によるネットワーク作りを進めるほか、東アジアや成長著しい東南アジア等を主なターゲットとした観光PRを積極的に展開するとともに、外国人観光客の受入環境の充実を図ります。

また、農業所得向上を目指し、収益性の高い農業を展開していくため、新品種・新技術の開発・普及とともに、稲作農家の規模拡大や生産コストの削減、付加価値の高い農産物の生産、革新的農業技術の開発などを推進するほか、「長寿世界一NAGANOの食」として、県産農産物・加工食品（6次産業化産品）の輸出拡大を支援します。

さらに、産学官が連携して、木材加工施設、木質バイオマス発電施設、熱利用施設の整備に取り組むことにより、新たな林業の創生と再生可能エネルギーの利用を推進します。

達成目標の進捗状況

※進捗区分 ○順調:目安値以上 ○概ね順調:80%以上100%未満の進捗
 ○努力を要する:80%未満の進捗 ○実績値なし:今年度実績値が把握できない
 ・進捗割合=(実績値-基準値)/(目安値-基準値)

指標名	暦年	単位	基準値 (H24)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)	
観光消費額	目安値	億円		3,140	3,179	3,219	3,259	3,300	
	実績値		3,103	3,148	2,974				
	進捗区分			順調	努力を要する				
	進捗状況の分析	2月の記録的な大雪や御嶽山の噴火などの災害、消費税率等の引き上げによる節約志向の影響等により、観光消費額は対前年比5.5%減となり、3年ぶりの減少となりました。							
【目標設定理由】 H24年実績見込みから5%増加を目標に設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 長野県の強みである「山岳高原」を最大限に活かす取組を推進 県内外への情報発信の充実 世界水準の滞在型観光地づくりに取り組み、宿泊を伴う観光客の増加を促進 							
【関連アクション】 アクション1, 2									
指標名	暦年	単位	基準値 (H22)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)	
農業農村総生産額	目安値	億円		2,968	2,996	3,015	3,033	3,050	
	実績値		2,908	3,031	3,016				
	進捗区分			順調	順調				
	※実績値は下表のA+B								
	【関連データ】 (単位:億円)								
	指標名				H25	H26			
	農産物産出額 (栽培きのこ類含む。)				2,832	2,815	出典:生産農業所得統計(H26は県農政部推計) (栽培きのこ類は生産林業所得統計)		
農業関連産出額				199	201	出典:県農政部推計			
※農業農村総生産額＝ 農産物産出額＋農業関連産出額									
進捗状況の分析	米の価格の下落などマイナス要素はあったものの、夏はくさいの適正生産の徹底などにより主力の葉物野菜のの価格が堅調に推移したことや、りんご、ぶどうなど果樹の生産量が増加したことなどから、H25年に引き続き3,000億円を超える結果となりました。								
【目標設定理由】 品目ごとの過去の増減率と今後の生産振興方針等をもとに設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化の推進や信州ワインバレー構想の具現化 稲作農家の規模拡大や生産コストの削減、付加価値の高い農産物の生産、革新的農業技術の開発 「長寿世界一NAGANOの食」として、県産農産物・加工食品(6次産業化産品)の輸出拡大を支援 							
【関連アクション】 アクション3									

指標名	暦年	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
外国人宿泊者数	目安値	万人		32.8	37.1	41.4	45.7	50.0
	実績値		20.3	36.1	46.5			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	立山黒部アルペンルートを観光する台湾やスノーリゾートを楽しむオーストラリア・中国からの旅行者が増加していることから、外国人宿泊者数は順調に推移しています。						
【目標設定理由】 倍増を基本に中国をはじめとする最重要市場からの宿泊者の増加を見込み設定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・東アジアや成長著しい東南アジア等の市場を主なターゲットに、各市場の特性に応じた効果的な誘客活動を強化 ・ネイティブの情報発信員により、Webサイト等を通じたインパクトのある情報を発信 ・外国人旅行者が快適に旅を楽しめるようWi-Fiなどの受入環境を整備 						
【関連アクション】 アクション1, 2								
指標名	年度	単位	基準値 (H23)	H25	H26	H27	H28	目標 (H29)
素材生産量	目安値	千m ³		330	350	600	605	610
	実績値		329	437	437			
	進捗区分			順調	順調			
	進捗状況の 分析	事業地の集約化、高性能林業機械の導入、木材搬出の路網整備等に加え、住宅やバイオマス用として県産材が積極的に利用されたことに伴い、近年の素材生産量は増加基調にあります。						
【目標設定理由】 民有林の間伐面積等の伸び率や国有林伐採計画から決定	今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・信州F・POWERプロジェクトの木質バイオマス発電施設の稼働(H29年中)に向け、サプライチェーンセンターによる木材供給体制を強化 ・事業地の集約化や機械化、林内路網整備等の生産基盤を強化する取組をさらに推進 						
【関連アクション】 アクション3								

アクション
1

(世界水準の山岳高原観光地づくり)

日本一の山岳環境や美しく豊かな農村景観を活かし、世界水準の山岳高原観光地づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

本県の貴重な財産である「信州の山」に感謝し、山を守り、育て、活かしながら次世代に引き継いでいくため、「信州 山の日」を制定するとともに、「信州の山」を盛り上げる取組を実施しました。

山岳高原観光地づくりについては、重点支援地域として指定した3地域のめざす姿を明確にするとともに、世界水準を目指した受入環境整備を支援しました。

また、県内の主要登山ルート「難易度」などにより評価する「信州 山のグレーディング」を作成、公表するなど、山岳遭難事故を防止し、安全な登山を実現するための取組を実施しました。

主な成果

●「信州 山の日」を制定 ～「山」を守り、育て、活かしていく機運の醸成～

- ・「信州 山の日」の県民認知度 82% (県政モニターアンケート)
- ・「信州 山の月間」中に90か所で市町村、団体と連携した関連イベントを実施し、約4万人が参加



「信州の山」ロゴマーク

●山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくりを推進

○重点支援3地域を支援

- ・信越自然郷アクティビティセンター (飯山駅) 整備
- ・立山黒部アルペンルートWi-Fiネットワーク環境整備
- ・梅池自然園遊歩道改修

各地域のめざす姿

【信越9市町村】

手ぶらで来て楽しめる「アクティビティの聖地」

【北アルプス3市村】

「HAKUBA VALLEY」と「立山黒部アルペンルート」の2大ブランドを活かした長期滞在型観光地

【木曾町】

御嶽の神秘と街道文化 ～Localな魅力をGlobalに～

○「NAGANOモビリティ」の構築に着手

トレッキングやサイクリング、カヌーなど山岳高原を活かしたアクティビティを楽しみながら移動する新しい旅行スタイル

- ・基本構想の策定
- ・モデル2ルートの開発とモニターツアーの実施



北陸新幹線飯山駅
アクティビティセンター

●「信州 山のグレーディング」を作成

○県内の主要登山ルート「体力度」と「難易度」により評価

- ・主要な登山ルートおよそ100ルートについて、必要体力度10段階、難易度5段階に分類

○山のグレーディングを近隣県へ波及

- ・中央日本四県 (新潟県、山梨県、静岡県、長野県) 知事サミットにおいて、「山のグレーディング」を紹介し、連携して取り組むことで合意

The table lists various mountain routes across different regions of Shinshu, such as the Northern Alps (北アルプス), Hida (北陸), and other areas. Each route is evaluated based on physical difficulty (from 1 to 10) and technical difficulty (from 1 to 5). The table also includes information on the route's location, length, and other relevant details.

信州 山のグレーディング

●山岳環境の保全と魅力発信

○自然公園の魅力を県内外に発信

- ・信州山岳環境魅力発信フォーラム (H27. 2. 15)
- ・ユネスコエコパーク全国サミットin志賀高原 (H26. 9. 19~20)
- ・日本ジオパーク南アルプス大会 (H26. 9. 27~30) など



志賀高原

○「長野県山岳環境連絡会」を設置(H26年5月)

構成メンバー：行政機関、山岳関係者、有識者

設置目的：山岳の環境保全と適正利用の方針策定

H26検討：登山レベルに応じた整備のあり方、山域ぐるみの協働管理体制 など

アクション 2

(県民参加型観光地域づくり)

来訪者が長野県の日常の暮らしを楽しむことができるよう、県民参加による観光地域づくりを進めます。

【アクションの進捗状況】

観光地域づくりを牽引する中核人材を育成するため、「信州・観光地域づくりマネジメント塾」を開催し、多様化する観光客ニーズに対応できる地域一体型の体制整備に取り組みました。

また、相手の気持ちになって行う「おもてなし」を観光関係者だけでなく、地域や職場、家庭など県民総参加で行い、観光旅行者の満足度向上と地域活性化を図る「ずく出し！知恵出し！おもてなしプロジェクト」を実施するなど、顧客満足度の向上に取り組みました。

さらに、若手芸術家と観光地・公共的施設等での発表の場の創出に取り組み、20組の芸術家の発表の場を創出しました。

主な成果

●「ずく出し！知恵出し！おもてなし」プロジェクトを推進

- ・「ずく出し！知恵出し！おもてなし」宣言の募集

登録件数 (H27年3月31日現在)：2,199件 (人数：45,671人)

- ・第I期信州おもてなし未来塾の開催

修了生：37名 年7回開催

- ・信州まごころトイレプロジェクトの実施

※洋式化やバリアフリー化など一定の基準を満たし、きれいなトイレを維持していく取組が行われている観光地の公衆トイレを「信州まごころトイレ」として認定

「信州まごころトイレ認定」 県内7か所

観光地公衆トイレ整備への助成 (H25年度及びH26年度)

H25年度：8市町村・8か所

●若手芸術家の活動を支援

観光地・公共的施設等でのアーティストの発表の場の創出

- ・マッチング数：H26年度：目標 15組 → 実績 20組



長野県PRキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ



若手芸術家による演奏会

アクション
3

(農林業の高付加価値化)

農山村の暮らしを支える農林業の基盤を強化するとともに、6次産業化の推進やエネルギー施策などとの複合的な施策推進により、農林業の高付加価値化を進めます。

【アクションの進捗状況】

農業については、「日本一の農業大学校」を目指して、平成26年度を初年度とする「農業大学校改革」に着手し、企業の農業経営者の育成を目的とした「実践経営者コース」の新設などを行ったほか、農業所得向上のため、6次産業化の促進や「信州ワインバレー構想」を具現化するための取組を重点的に実施し、高付加価値化を進めました。

林業については、信州F・POWERプロジェクトで整備する施設に原木を安定供給するため、サプライチェーンセンターを構築するとともに、需給調整、産地証明などの役割について検討しました。

また、これからの長野県の林業において、中核的な役割を果たすことが期待される「信州フォレストコンダクター」の育成を進めました。

主な成果

●長野県農業大学校改革がスタート ～日本一の農業大学校を目指して～

- ・ 企業の農業経営者の育成を目的に「実践経営者コース」を新設（一期生7名）
- ・ 大手農機具メーカー4社との連携により最新農業機械の操作技術を習得（H26年度：4回開催）
- ・ 著名な客員教授による特別講義と、多彩な民間講師陣による実践的な講義
（H26年度：妹尾堅一郎氏、大久保和孝氏、田中進氏を招聘し、特別講義を実施）
- ・ 移住希望者を対象にした「農ある暮らし入門研修」の新設 39人参加（県外33人、県内6人）
- ・ 新しい学生寮や最新農業機械などを整備（H25～H26年度）



農業機械メーカーとの連携による操作実習



特別講義



農ある暮らし入門研修

●農業の6次産業化を促進 ～認定件数は全国3位～

H25設立の「信州6次産業化推進協議会」を中心にプランナーを派遣するなど6次産業化を支援

- ・ 6次産業化法に基づく総合化事業計画の認定件数
H26年度：目標 90件 → 実績 91件（全国3位）



優良事例集【延べ31事例掲載】

(様式第1号)

●ワイン生産アカデミーを開催 ～受講者のワイナリー設立3名～

H25からワイン用ぶどうの生産やワイナリーの起業を支援するため、「ワイン生産アカデミー」を開始

区分	目標	実績	主な受講者の動向 (H27.6.1現在)
H25受講者	30名	43名	・ワイナリー設立3名 (H29目標:5名) ・ぶどう栽培開始3名
H26受講者	30名	41名	・ぶどう栽培開始5名 ・醸造研修受講4名



研修の様子

★波及効果

- ・塩尻ワイン大学(H26.5～)
- ・千曲川ワインアカデミー(H27.4～)

●サプライチェーンセンター設置による原木の安定供給体制を構築 ～信州F・POWERプロジェクトの展開～

H26年10月に事業主体の征矢野建材(株)とサプライチェーンセンターにおいて製材用素材(原木)の安定供給に係る協定を締結し、入荷がスタート

⇒入荷量:約8,000m³(3月末時点)

※サプライチェーンセンター

長野県木材協同組合連合会、長野県森林組合連合会、長野県納材協同組合、木曾官材市売協同組合の4団体で構成する素材(原木)の流通組織



製材用原木の状況(H27.3現在)



信州F・POWERプロジェクト事業地全景

●信州フォレストコンダクターを育成

～森林県から林業県への飛躍を目指して～

フォレストコンダクター登録者数

H26目標:10名 ⇒ 実績:9名 (H25からの累計19名)

各地域におけるH26年度のフォレストコンダクターの活動実績

- ・地域の林業・木材産業関係者の連携の場の設定、情報交換
- ・地域の関係者が連携した木材生産・流通体制の構築、木質バイオマス利用の促進
- ・若手技術者の指導、研修の実施 等



フォレストコンダクター連携会議



集合研修